

柳田邦男がおとなにすすめる絵本 心の砂漠にうるおいを

第1弾 24冊+11冊

『砂漠でみつけた一冊の絵本』より
柳田邦男/著 岩波書店 2004




著作者・訳者

出版社
出版年

メーカーコメントほか

●「生と死」、そして愛と悲しみと



1		1000の風 1000のチェロ	いせひでこ/作	偕成社 2000.11 1,430円	犬をなくした少年にお父さんが買ってきてくれたのは犬ではなく、チェロでした。阪神淡路大震災復興支援チャリティーコンサート「1000人のチェロコンサート」にむけて仲間と練習に励みます。1000のチェロ。1000人の物語。ひとりひとりの物語は違っても、気持ちをあわせればちゃんとひとつの曲になる。1000の音がひとつの心になる。
2		おじいちゃん わすれないよ	バット・ウェステラ/作 ハルメン・ファン・ストラテン/絵 野坂悦子/訳	金の星社 2002.7 1,430円	おじいちゃんのお葬式の日…。僕の胸にはおじいちゃんとの楽しい思い出がいっぱい。悲しい永遠の別れ、死の意味を受け入れる。日常の中におとずれた「死」を、澄みきった少年の目を通して描くオランダの絵本。
3		いつでも会える	菊田まり子/著	学研プラス 1998.12 1,045円	ぼくには、大好きで大切な人がいる。それは突然のことだった…シロが悲しみをのりこえる。突然おきた、身近で大切な人の死。そんな時、あなたはどうしますか？
4		岸辺のふたり Father and daughter	マイケル・デウドク・ドウ・ヴィット/作 うちだやこ/訳	くもん出版 2003.3 1,430円	岸辺で別れた父を想いながら、少女の人生は流れて…。あなたの大切な人は、いま、どこにいますか。別れからはじまる、小さなものがたり…。静謐な絵が、あなたの心を和ませてくれます。
5		あらしのよるに 完全版	きむらゆういち/作 あべ弘士/絵	講談社 2014.9 2,035円	オオカミのガブとヤギのメイの友情物語。2019年からスタートしたシリーズ全7巻が、一冊で読めます。
6		100万回生きたねこ	佐野洋子/作・絵	講談社 1978 1,540円	100万回生まれかわっては、飼い主のもとで死んでゆくとなねこ。飼い主たちはねこの死をひどく悲しんだが、ねこ自身は死ぬのなんか平気だった。ある時、ねこは誰の猫でもないのらねことなり、一匹の白いねこに恋をする…。本当に誰かを愛するということは…。この世に生まれた意味を問いかける絵本です。
7		海のいのち	立松和平/作 伊勢英子/絵	ポプラ社 1992.12 1,320円	父の命を奪った、巨大な魚を追うため漁師になった青年が、海の中で見たものは…。海のもつ豊かさを、感動的に描いた作品。
*		スーホの白い馬 モンゴル民話	大塚勇三/再話 赤羽末吉/画	福音館書店 1967.10 1,540円	「馬頭琴」の悲しい由来とは？モンゴルの大平原が画面いっぱい広がる、壮大な絵物語。
*		わすれられない おくりもの	スーザン・バーレイ/作・絵 小川仁央/訳	評論社 1991.9 1,320円	アナグマは、もの知りで賢く、みんなからとても頼りにされていた。冬のはじめ、アナグマは死んだ。かけがえない友を失った悲しみに、みんなはどうしていいかわからない…。友だちの素晴らしさ、生きるためのちえやくふうを伝えあっていくことの大切さを語り、心にしみる感動をのこす絵本です。
*		グレイのしっぽ	いせひでこ/作	理論社 1999.6 1,540円	アリの行列、折れた木の枝、日陰にのこった雪のかたまり…グレイが立ち止まると私も止まり、目と目が合うと、「いいものみつけたねえ」としみじみうなずきあった。一おまえは犬で私は絵描き。おまえの死をけて目をそらさないで見とどけよう。 中公文庫 2002.10 628円
*		赤いおおかみ	フリードリッヒ・カール・ヴェヒター/作 小沢俊夫/訳	古今社 2001.12 2,530円	生きるとは、こんなにも喜びがほしいへんことなのだ。しかし、それだからこそ勇気や愛が美しくかがやくのだ。ここには、孤独、愛、勇気、悲しみ、怒り、戦争と平和、そして「生と死」のすべてが深く語られている。


* 	ぼくのいのち	細谷亮太/作 永井泰子/絵	岩崎書店 1999.6 1,430円 白血病だったことを知らされたぼくがかみしめるいのちの重さ。幼児から大人まで。
* 	レアの星 一友だちの死—	パトリック・ジルソン/文 クロード・K・デュボア/絵 野坂悦子/訳	くもん出版 2003.9 1,430円 レアはがんという病気にかかり、入院することになりました。友だちのロビンは、まい日、お見舞いにいきます。本を読んだり、おしゃべりしたり、いっしょに星を見上げたり。けれども、やがてふたりに別れの時が、訪れます…。レアとロビンの友情を通して命を静かに見つめる絵本。
* 	さよなら エルマおばあさん	大塚敦子/文・写真	小学館 2000.8 1,430円 ガンの告知を受けたおばあさんが、無理な延命治療をしないで、家族の温かな介護で死を迎えていくまでを写真とおばあさんの飼った猫の目を通して綴ります。いつまでも忘れないよ。スターキティが語るおばあさんの思い出。ある夏の終わり、エルマおばあさんは、お医者さんから病気でもう長くは生きられない、と言われました。これは、おばあさんといっしょにすごした最後の1年間のお話です。

●想像力を取り戻そう

8 	きりのなかの はりねずみ	ノルシュテイン、コズロフ/作 ヤルブーソヴァ/絵 こじまひろこ/訳	福音館書店 2000.10 1,430円 霧の中ではりねずみが体験したのは、あこがれ、驚き、怖れ、そして、喜び…。そう、人生そのものなんだ。映像の詩人と呼ばれ、世界的に評価の高いロシアのアニメーション作家ノルシュテインが、短編アニメーションの傑作『きりのなかの はりねずみ』を、新たに絵本として見事に表現した。絵は、ノルシュテイン作品の美術監督でパートナーでもあるヤルブーソヴァが担当。詩情あふれる、美しく、味わい深い絵本。
9 	パリの青い鳥	ヴェロニク・ウィルマン/作 ジョエル・ルブロン/作 今江祥智/訳	BL出版 2003.2 1,540円 ジャンとネストル、小さなパリガイド。ママとはぐれてしまったジャンは1羽のハトに出会う。ハトはパリの街を案内しながら、ジャンをママの元へと…。モノクロの写真絵本。
10 	鳥の巣みつけた	鈴木まもる/文・絵	あすなろ書房 2002.4 1,320円 さまざまな鳥の巣、全35種をめぐる旅。巣から鳥の暮らしが見えてくる、美しい鳥の巣観察絵本。コウノトリからペンギン、サボテンミソサザイまで全35種を紹介！家のまわりの鳥の巣を探し、遠い外国の鳥の巣にも思いをめぐらす、美しいスケッチ絵本。
11 	クマよ	星野道夫/文・写真	福音館書店 1999.10 1,430円 アラスカの大自然のまっただ中に身を置き、悠久の時のかなたから響く声に耳をすまし、闇にひそむ動物たちの鼓動にわが身の鼓動を重ね、凛とした言葉と永遠の今を捉えた映像を残して、遠い世界へ旅立った星野道夫。その彼が、小さな人たちの魂にまでとどいてほしいと願った祈り…。
12 	くじらの歌ごえ	ダイアン・シエルダン/作 ゲイリー・ブライズ/絵 角野栄子/訳	BL出版 1991.6 1,540円 リリーのおばあさんは話し始めました。「昔はね、海にはくじらがいっぱいたのよ。くじらってね。山みたいに大きいのお月さまのように優しくてね。それはそれは不思議なものよ……」
* 	鳥の巣の本	鈴木まもる/著	岩崎書店 1999.4 1,980円 鳥の巣の作り方や大きさ、卵のふ化日数など鳥の巣に関することをイラストで解説した図鑑。
* 	詩画集 鳥の巣のうた	鈴木まもる/詩・絵	岩崎書店 1999.9 1,540円 鳥たちは、卵をうみ、ヒナをそだてるために、巣をつくります。サボテンにつくった巣、樹のてっぺんにつくった巣、滝の裏側につくった巣…ヒナを外敵からまもるための、精いっぱい工夫です。鳥の巣を通して、生きることへのひたむきさが、静かに、そして深くつたわる、生命の讃歌。

●生きることの過酷さ—人間疎外

13 	野坂昭如戦争童話集 沖繩編 ウミガメと少年	野坂昭如/作 黒田征太郎/絵	講談社 2001.6 1,980円 あの年の、6月23日から8月15日までの時間が、あの年からの、沖縄と本土との距離……忘れてはイケナイ物語り。「沖縄と向き合うことが、物書きとしての最後の務め」野坂昭如 x 黒田征太郎による渾身の戦争童話集。
14 	よだかの星	宮沢賢治/作 伊勢英子/絵	講談社 1986.11 1,760円 宮沢賢治の名作を深く解釈し、表現した絵本。姿が醜くて、仲間の鳥たちから毛嫌いされているよだかは、この地上のどこにも居場所のないことを感じ、天の星になるべく上空へと羽が上っていきます。

15		アンジュール ある犬の物語	ガブリエル・バンサン/作	BL出版 1986.5 1,430円	走行中の車から捨てられた一匹の犬。どんなに追いかけても走り去る車に追いつくことはできない。通るすぎていく車に、もしや飼い主が乗ってはいないかと犬は駆ける。期待の表情がやがて諦めに変わり、犬は浜辺を、町をさまよひ歩く……。 字のない絵本。
----	-----------------------------------------------------------------------------------	--------------------------	--------------	--------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

●こんな心のもち方が

16		きいろいばけつ	もりやまみやこ/作 つちだよしはる/絵	あかね書房 1985.4 990円	きつねの子が、丸木橋のたもとで黄色いばけつを見つけました…。きつねのばけつへの想いを優しく温かく描く。
17		パパのカノジョは	ジャニス・レヴィ/作 クリス・モンロー/絵 もん/訳	岩崎書店 2002.1 1,870円	「カッコいい」「カッコわるい」ってどんなこと？ すごくカッコわるいパパの新しいカノジョと、あたしの微妙な関係…。
18		ありがとうともだち	内田麟太郎/作 降矢なな/絵	偕成社 2003.6 1,100円	おれのともだち、キツネが、初めてのお泊りにやってきた。嬉しくて楽しくて、いとこみせようってはりきって、つい言っちゃったんだ。でっかいウソを。だって「オオカミさん、すごいね」ってキツネがおれを見ると、むくむく力がわいてきて、なんでもできる気がするから。キツネ、みてるよー。ウソだってホントにしちゃえばいいよな。がっかりさせたくないから…。
19		だいじょうぶ だいじょうぶ	いとうひろし/作・絵	講談社 1995.10 1,100円	小さなぼくが不安な気持ちになると、いつもおまじないの言葉で助けてくれたおじいちゃん。 心にしみる絵本。
20		ちいさなちいさな王様	アクセル・ハッケ/作 ミヒヤエル・ゾーヴァ/絵 那須田淳・木本栄/訳	講談社 1996.10 1,430円	ある日、ふらりと僕の部屋にあらわれた、僕の人差し指サイズの気まぐれな小さな王様。 この世の中のことは全て本当のことなのか？僕の人差し指サイズの小さな王様。王様の世界では大きく生まれて成長するにつれ小さくなり、しまいには見えなくなってしまうという。 ドイツのベストセラー小説。
*		フレデリック ちょっとかわったのねずみのはなし	レオ・レオニ/作 谷川俊太郎/訳	好学社 1980 1,602円	食べ物やわらを集めて、冬たくをしているのねずみたち。でもフレデリックが集めたのは、光と色と言葉でした。それは一体なぜでしょう。

●人生にどう答えを出すか

21		木を植えた男	ジャン・ジオノ/原作 フレデリック・バック/絵 寺岡襄/訳	あすなろ書房 1989.12 1,760円	不屈の精神、心の寛大さ、たゆまない情熱。それが、すばらしい結果をもたらした。木を植え続け、見守り続けた男の人の生涯。エルゼアール・プフィエの半生。 未来へつながるヒントがそこにあるはず。
22		カモメに 飛ぶことを教えた猫	ルイス・セプルバダ/著 河野万里子/訳	白水社 1998.6 1,650円	猫のソルバが誓った三つの約束、でもその約束をまもるには、大いなる知恵とまわりのみんなの協力が必要だった…。 ヨーロッパで大ベストセラーとなった愛と感動の物語。 白水uボックス（新書） 2019.4 990円
23		満月をまっつ	メアリー・リン・レイ/文 バーバラ・クローニー/絵 掛川恭子/訳	あすなろ書房 2000.9 1,540円	今から100年以上前、アメリカのニューヨーク州ハドソンからそれほど遠くない山間の地方に、籠をつくつて生計をたてる人たちがいました。丈夫で美しい籠を作るための技術と静かな情熱は、長い間、父から子へ、こんなふうに伝えられていたのです。木の声を聞き、風の歌を編む、籠作り職人の「こころ」を描いた絵本。
24		ペンキや	梨木香歩/文 出久根育/絵	理論社 2002.12 1,760円	喜びや悲しみ、浮き浮きした気持ちや寂しい気持ち、怒りやあきらめ、みんな入った「ユトリロの白」を塗りつづけたある職人の物語。
*		フーベルトとりんごの木	ブルーノ・ハリラー/文 アルブレヒト・リスラー/絵 木本栄/訳	講談社 2001.8 1,760円	幾つもの季節を共に過ごした男とりんごの木。大きく立派なりんごの木は、誰からも愛され、持ち主の自慢でした。ある日、雷に打たれて二つに裂けたりんごの木は、もうたくさんの実をつけることもなくなり…。



*

ヴァイオリニスト

ガブリエル・バンサン/作
今江祥智/訳

BL出版

2001.1

2,640円

父親の期待を受け、コンクールに入賞を目指し幾度となく挑戦する青年。結果を出せぬまま、やがて、父親との確執の中で心を閉ざします。そんなとき、青年はひとりの少年と出会い、入賞だけが音楽ではないと……。

「生きていくこと」を問うガブリエル・バンサンの珠玉の一冊。

「今、おとなこそ絵本を」「絵本は人生に三度」は、柳田邦男先生のキャッチフレーズだ。
2022年、今あらためて『砂漠でみつけた一冊の絵本』を読みかえした。
かなりの数の絵本を手にしてきたつもりであったが、このリストの中に、手にしていない本が何冊も見つかった。
宝物を見逃していた。これはぜひ共有して、みんなの宝物にすべきだと思う。
それがこのリストを作成し、提供する動機となった。(野村邦重 2022/03/10)